



会社名 J.フロント リテイリング株式会社
 コード番号 3086
 代表者名 代表執行役社長 好本 達也
 お問合せ先 コーポレートコミュニケーション室
 TEL 03-6865-7621

2023年7月度 J.フロント リテイリング 連結売上収益報告 (IFRS)

1. セグメント別売上収益 (売上高) (対前年増減率: %)

	売上収益(IFRS)		(参考)総額売上高	
	7月度	上期累計	7月度	上期累計
百貨店事業	7.4	10.0	11.7	13.7
SC事業	5.3	7.1	19.8	16.0
デベロッパー事業	17.0	25.5	19.9	28.4
決済・金融事業	0.7	1.6	0.7	1.6
その他	▲1.8	4.5	▲1.8	4.3
連結合計	9.8	13.2	14.5	15.6

※注) 1.当社は2017年3月から国際会計基準(IFRS)を任意適用しています。
 2.総額売上高はIFRS売上収益のうち「百貨店事業」の消化仕入取引を総額に、「SC事業」の純額取引をテナント取扱高(総額ベース)に置き換えて算出しています。
 3.各セグメントの対前年増減率は、それぞれを構成する事業会社の単純合算により算出しており、セグメント内消去を含みません。
 4.津田沼PARCOは、2023年2月末日をもって営業を終了しました。

2. 事業別の概況

1) 百貨店事業

- 7月度の売上高は、ラグジュアリーブランドや化粧品が引き続き好調に推移したことに加え、猛暑により婦人カットソー、サマーニットなどの盛夏商品やサングラス、サンダルなどが活発に動いたことなどから、大丸松坂屋百貨店合計では対前年11.7%増、関係百貨店を含めた百貨店事業合計では同11.7%増となった。
- 大丸松坂屋百貨店の免税売上高は、対前年318.3%増(客数同1898.3%増、客単価同▲79.1%減)であった。大丸松坂屋百貨店の国内売上高(免税売上の本年・前年実績を除く)は対前年4.6%増であった。
- なお大丸松坂屋百貨店の8月度の既存店売上(法人・本社等を除く)は、ラグジュアリーブランド、化粧品が大きく売上を伸ばし、訪日外国人売上も好調を維持していることに加え、前年同時期に感染者数が増加していたことの反動もあり、14日までの累計で対前年26.4%増(対2019年度2.2%増、対2018年度3.5%増)、国内売上高は同15.9%増(対2019年度▲0.3%減、対2018年度1.2%増)で推移している。免税売上高は対前年302.8%増(対2019年度26.7%増、対2018年度24.4%増)で推移している。

2) SC事業

- 7月度のテナント取扱高は、猛暑により季節商品が好調で客単価も上昇したファッションや、訪日外国人売上の増加に加え、継続して好調な展覧会では複数のヒットコンテンツがあり、全店舗計(既存店)で対前年26.1%増となった。

3) デベロッパー事業、決済・金融事業、その他

- デベロッパー事業は、J.フロント建装が、ホテル内装工事の好調により増収となり、パルコスペースシステムズも増収であったことなどから、全体でも増収となった。
- 決済・金融事業のJFRカードは、ポイント費の増加による売上収益減要因があったものの、加盟店手数料、割賦販売手数料の増加などにより、増収となった。
- その他は、卸売業の大丸興業が前年の半導体調達難の反動などにより増収となったが、SS会社の受託減などにより、全体では減収となった。

【お問合せ先】 J.フロントリテイリング株式会社 コーポレートコミュニケーション室
 IR推進担当 TEL 03-6865-7621
 グループ広報担当 TEL 03-6865-7616

2023年7月度 百貨店事業 営業報告(総額売上高)

1. 売上高および入店客数 (対前年増減率：%)

	7月度		上期累計	
	売上高	入店客数	売上高	入店客数
大丸 心齋橋店	34.5	74.6	33.8	61.1
大丸 梅田店	21.7	42.9	19.1	33.2
大丸 東京店	26.4	33.8	31.2	37.1
大丸 京都店	14.4	10.6	14.6	8.9
大丸 神戸店	4.4	15.6	8.8	10.2
大丸 須磨店	1.3	▲0.6	1.0	▲1.5
大丸 芦屋店	4.1	2.6	1.8	▲0.1
大丸 札幌店	13.2	17.6	15.7	19.3
大丸 下関店	▲1.4	▲2.9	▲5.4	▲5.1
松坂屋 名古屋店	4.7	17.8	9.3	9.6
松坂屋 上野店	3.6	24.4	5.7	23.5
松坂屋 静岡店	2.6	8.0	2.9	1.4
松坂屋 高槻店	3.6	12.7	▲2.6	3.0
店 計	13.5	26.3	15.7	22.2
法人・本社等	▲25.1	-	▲19.3	-
大丸松坂屋百貨店合計	11.7	26.3	13.9	22.2
うち商品売上高	11.6	-	14.0	-
うち不動産賃貸収入	15.7	-	11.8	-
博多大丸	13.4	20.6	13.9	17.4
高知大丸	0.3	5.2	▲1.4	▲4.8
百貨店事業合計	11.7	25.8	13.7	21.7

2. 大丸松坂屋百貨店 商品別売上高 (対前年増減率：%)

	全店計	
	7月度	上期累計
紳士服・洋品	▲2.2	▲2.7
婦人服・洋品	16.0	17.7
子供服・洋品	13.4	11.0
その他の衣料品	9.1	5.6
衣料品計	13.6	14.7
身 回 品	17.9	13.1
化粧品	28.4	28.5
美術・宝飾・貴金属	8.5	15.3
その他雑貨	17.1	22.8
雑 貨 計	16.2	21.1
家具	14.3	7.8
家電	▲7.3	12.7
その他の家庭用品	4.1	2.7
家庭用品計	6.4	4.1
生 鮮	2.4	2.3
菓 子	10.9	14.6
惣 菜	7.2	9.0
その他食料品	▲2.2	2.4
食料品計	4.7	8.5
食堂・喫茶	31.8	29.4
サービス	16.0	13.8
そ の 他	▲3.5	▲1.8
合 計	11.6	14.0

3. 営業概況

- ・ 婦人服・洋品では、ラグジュアリーブランドが好調を持続したほか、カットソー、サマーニットなどの定価商品がよく動いた。紳士服・洋品でも定価商品が全般に好調であったが、品番移管の影響により、対前年マイナスとなった。身回品ではサンダル、スニーカーがよく動いたほか、ハンドバッグも好調であった。雑貨ではインバウンド需要の拡大もあり、化粧品が大きく売上を伸ばした。食料品では夏休みのおみやげ需要増などにより菓子が好調に推移した。食堂・喫茶は人流回復による利用客増が寄与し、大幅増となった。

2023年7月度 パルコ店舗 テナント取扱高報告

※「テナント取扱高」とは、パルコ店舗におけるテナント取扱高(売上)の合計値で、前年の値も同じ基準で集計いたしております。

1. 店舗別テナント取扱高(対前年増減率：%)

	7月度	上期累計
札幌PARCO	49.6	38.0
仙台PARCO	21.8	17.5
新所沢PARCO	▲5.5	▲8.5
浦和PARCO	13.3	9.6
池袋PARCO	28.4	21.5
PARCO_ya上野	31.3	30.4
ひばりが丘PARCO	14.1	8.1
吉祥寺PARCO	28.4	23.9
渋谷PARCO	57.4	60.1
錦糸町PARCO	27.4	23.1
調布PARCO	10.8	8.9
松本PARCO	19.5	2.9
静岡PARCO	▲3.4	▲3.6
名古屋PARCO	13.8	8.7
心齋橋PARCO	66.4	54.9
広島PARCO	7.9	7.6
福岡PARCO	35.5	28.5
全店計	21.3	16.6
既存店計	26.1	21.3

※注) 1. 津田沼PARCOは、2023年2月末日をもって営業を終了しました。
2. 既存店計には、津田沼PARCOの前年実績値を含みません。

2. アイテム別テナント取扱高(対前年増減率：%)

	全店計	
	7月度	上期累計
衣料品	15.5	11.2
身回品	26.7	17.8
雑貨	33.3	24.4
食品	▲0.8	▲2.6
飲食	29.4	26.3
その他	15.1	21.3
合計	21.3	16.6

3. 営業概況

- 7月度のテナント取扱高は、猛暑により季節商品が好調で客単価も上昇したファッションや、訪日外国人売上の増加に加え、継続して好調な展覧会では複数のヒットコンテンツがあり、全店舗計（既存店）で対前年26.1%増となった。
- アイテム別取扱高では、アニメ・ゲームコンテンツを含む雑貨が対前年33.3%増、夏季休暇に伴う人流の増加や訪日外国人客の取り込みにより飲食が同29.4%増となった。